経済マンスリー［米国］

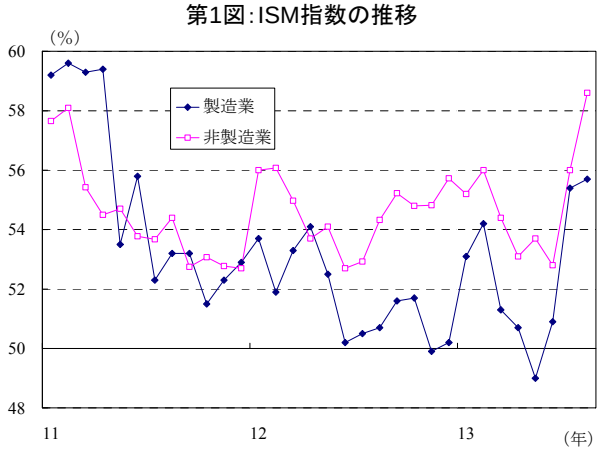
景気が緩やかに回復するなか、FRB は慎重に出口戦略を模索

米国経済は、緩やかなペースながら回復基調を辿っている。8 月分の指標をみると、ISM 指数は製造業が前月比+0.3%ポイント、非製造業が同+2.6%ポイント（第 1 図）。水準的にはそれぞれ 55.7%、58.6%で、2011 年 4 月、05 年 12 月以来の高位となり、企業景況感の改善がしっかりと示された。また、雇用統計では、非農業部門雇用者数が同+16.9 万人に止まり、今年前半の増加ペースには届かなかったものの、失業率が労働参加率の後退もあって 2 ヵ月連続で低下・改善（第 1 表）。このほか、時間当たり賃金、週平均労働時間、賃金総額が増加した。別統計の新規失業保険申請件数でも減少傾向が続くなど、労働市場が全体として改善方向にあることは変わっていないようだ。

今後も米国経済は、住宅市場の正常化や家計部門におけるバランスシート調整の進展などをベースとして、回復基調を維持し得る見通しである。住宅市場に関しては、足元での金利上昇を受け、借り換えローンなど一部で伸び悩みの動きも窺われるが、先行指標とされる住宅建築業者景況指数は少なくとも向こう 1 年程度までの回復持続を示唆している。

こうした状況下、FRB は 9 月 17-18 日に開いた FOMC で量的緩和策第 3 弾（QE3）の縮小を見送り、現行ペースでの資産買入（住宅ローン担保証券を月 400 億ドル、長期国債を同 450 億ドル、合計で同 850 億ドル）の当面継続を決めた。米国経済の回復は依然道半ばであり、その過程を確かなものとするために「成長が持続的であることを示すより多くの証拠を待つ」のが適切と評価した模様だ。また、声明文では「住宅ローン金利の一段の上昇」や「連邦財政の縮減」に対する懸念も挙げられた。バーナンキ議長は、QE3 縮小の早晩開始との大枠を維持しつつ、タイミングについては柔軟に判断する方針を確認した。FRB は今後も、実体経済の動静、金融市場の動向などを総合的に見極めながら、慎重に出口戦略を探っていくこととなる。

第1図：ISM指数の推移



（資料）全米供給管理協会統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第1表：雇用統計中の主要計数の推移（2013年）

	4月	5月	6月	7月	8月
非農業部門雇用者数（前月比、万人）	19.9	17.6	17.2	10.4	16.9
民間部門雇用者数	18.8	18.7	19.4	12.7	15.2
政府部門雇用者数	1.1	▲ 1.1	▲ 2.2	▲ 2.3	1.7
失業率（%）	7.5	7.6	7.6	7.4	7.3
労働参加率（%）	63.3	63.4	63.5	63.4	63.2
時間当たり賃金（前月比、%）	0.1	0.0	0.3	0.0	0.2
週平均労働時間（時間）	34.5	34.5	34.5	34.4	34.5
賃金総額（前月比、%）	0.1	0.2	0.6	▲ 0.2	0.6

（注）『時間当たり賃金』、『週平均労働時間』、『賃金総額』は、民間部門。
（資料）米国労働省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 石丸　康宏 yasuhiro_ishimaru@mufg.jp
福地　亜希 aki_fukuchi@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。